令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大久保 小学校 ）　　学校番号　０１７

【様式】

目指す学校像	児童にとって「私の居場所がある」、保護者にとって「通わせ甲斐がある」、教職員にとって「働き甲斐がある」、地域にとって「地域に根ざし、地域に愛され、地域とともに育つ」学校

重点目標	１　学びの自律化 ＜昨日よりも今日、成長したことが実感できる学習指導＞ ２　児童一人ひとりがWell－Beingな学校 ＜温かい学級経営、確かな児童理解に基づく教育相談・生徒指導、安全・安心な教育環境整美＞ ３　コミュニティスクールの推進＜子どもを中心に、地域に根ざし地域に愛される学校＞ ４　教職員の資質向上と働き方改革 ＜教職員が互いに高め合う学校課題研究。心身ともに健康で働きやすい職場環境＞

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日　令和７年２月１３日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ・基礎的・基本的な知識・技能の定着については個人差がみられるものの、市学習状況調査（生活習慣に関する調査）の「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という質問において、肯定的な回答の割合が 90%を超える。 ・市学習状況調査（生活習慣等に関する調査）の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問において、肯定的な回答の割合が 79.4%である。 （課題） ・市学習状況調査（生活習慣等に関する調査）の「読書は好きですか」という質問で、肯定的な回答をした児童の割合が学年ごとに 54%～88%と異なる。	家庭学習や読書習慣を身に付けさせ基礎学力の向上を図ると共に児童の学びの自律化を図る	①　朝読書（週１回）、図書ボランティアによる読み聞かせ（年間３回）、読書週間（年間２回）を実施する。 ②　家庭学習の行い方について、年度当初に全教職員で共通理解し、保護者懇談会で資料を配付、年間通じて３～６学年で家庭学習を実施する。（通年） ③　業前の学習タイムにノートやプリント、タブレット等を活用し一人ひとりの学びに合わせた反復学習を行う。（年間） ④　１学年で ICT 端末を活用した授業を行う。	・保護者の学校評価「一人ひとりに応じた授業の工夫」で肯定的評価について前年度を超える。（R5 年度 72.4%） ・全国学力学習状況調査「主体的に学習に取り組む態度」について肯定的な回答が昨年度を超える（R4・77%　R5・86.9%）。 ・学びの指標「主体的な学び」校内平均で昨年度を超える（R5･3.2）。	・保護者の学校評価「一人ひとりに応じた授業の工夫」における肯定的評価は 84%（前年度比+1.5pt）。 ・全国学力学習状況調査「主体的に学習に取り組む態度」について肯定的な回答割合は 85.0%（前年度比-1.9pt）。 ・学びの指標「主体的な学び」校内平均は 3.2（前年度比±0pt）。 ・朝読書や図書ボランティアによる読み聞かせ、読書週間の実施に加え、緑陰読書会による全学年対象読み聞かせや、読書月間等に合わせた図書委員会主催の取組を実施した。 ・１学年を含む各学年における ICT 端末を活用した授業を計画的に行った。	B	・高学年児童は他学年と比べると図書館の利用頻度が劣ることから、カリキュラムの工夫や低・中学年における読書習慣の定着、持続を図る。 ・学校評価「家庭で学習する習慣が身に付く」における肯定的回答割合は昨年度より児童は 2pt、保護者は 6pt 向上した。引き続き、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図る。 ・教科担任制の拡充や ICT 端末の一層の活用により授業の質を向上させ、児童の学力向上と学びの自律化をさらに加速させる。	・図書ボランティアの方々の頑張りが素晴らしい。高学年の図書室利用は、図書貸出機会を確保するなど工夫するとよい。 ・達成度はＡでもよいくらいに感じる。 ・学校評価で全員が肯定的に回答したわけではない点にも着目し、児童への支援等が大切である。
2	（現状） ・学校評価の「学校の生活が楽しい」という質問において、肯定的な回答をした児童、保護者共に 90%である。 ・学校評価の「健康や安全に気を付ける意識や態度が育っている」という質問において、肯定的な回答をした児童が 93%、保護者が 83%である。 （課題） ・児童や保護者等の困りごとについて、小さなことでも早期に相談、迅速な情報共有、対応する体制を更に充実させる必要がある。 ・緊急時のトリアージを含め、危機管理対応の更なる見直し、訓練を図る必要がある。	確かな児童理解にもとづいた「児童一人ひとりが Well－being な学校」の実現。	①　不登校等児童生徒のための Sola（ソラ）ルームの設置、活用。オンライン授業の配信（通年） ②　おはようメーターの活用（通年） ③　SC,SSW 等の専門職を含めたケース会議を行う。（毎月１回程度） ④　児童の活躍の場を広げる学校行事、なかよしタイムの充実。（通年）	・毎月の生徒指導・特別支援教育委員会で、児童一人ひとりの状況を確認し、全教職員で共通理解する。 ・児童の学校評価「学校の生活が楽しい」で肯定的な回答の割合が 90%を超える（R5・90%）。	・毎月開催した会議にて、児童の状況確認及び全教職員で共通理解し、指導支援にあたった。学校評価「特別な支援が必要な児童への配慮」について保護者の 98.2%から肯定的な回答を得た。 ・児童の学校評価「学校の生活が楽しい」で肯定的な回答割合は 94.7%（前年度比+4.7pt）。	A	・学校評価「保護者への丁寧・迅速な対応」における保護者の肯定的回答割合は 97%（前年度比+9pt）だった。今後も児童や保護者の困りごとに寄り添いながら丁寧に対応していく。 ・Sola ルームの運用、オンラインの配信など、今後もニーズに応じて実態を踏まえ対応していく。	・困ったことを相談できる環境や雰囲気を整えられているのが素晴らしい。 ・緊急時を想定した救急セット等を各フロアに設置してある点が大変よい。 ・今後も避難訓練等を重ね、有事の際に本当に安全を確保し避難できる力や手段を身に付けてほしい。 ・児童の安全意識等に関する教職員の評価が下がっていることは、児童の実態をよく見ている証拠と取れる。引き続き指導していってほしい。
		安全・安心な教育環境整美	①　毎月、安全点検を確認するとともに、適切な修繕を計画的に進める。 ②　避難訓練（地震、火災、水害、緊急時トリアージ等）を行う。（通年） ③　予算を計画的に執行するとともに校長マネジメント枠により増額した手数料を有効活用する。（2 月末）	・保護者の学校評価「安全確保、安全対策」で肯定的な回答割合が前年度と同水準にする（R5･83%）。 ・職員の勤務開始時間を８時１５分からとし、朝の児童の安全を確保する（通年）。	・保護者の学校評価「安全確保、安全対策」での肯定的な回答割合は 92.9%（前年度比+9.9pt）。 ・毎月の安全点検に基づき修繕を計画的に進めた。不具合等の報告件数は４月点検時の 10 件に対し、５月以降は月平均 2.1 件に削減した。	A	・トリアージ研修や危機管理対応訓練に加え、不審者対応なども訓練を重ねる。 ・校庭の倒木撤去やピアノ調律など、手数料を有効活用できた。次年度以降も修繕費と合わせ、一層の環境整美に努める。	
3	（現状） ・令和５年度、学校運営協議会を年間３回、SSN 連絡協議会を年間２回開催した。 ・市学習状況調査（生活習慣等に関する調査）の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問において、肯定的な回答をした児童が 93.6%（4,5,6 年平均）、「地域の人たちは自分たちを見守り支えてくれていると思いますか」という質問において肯定的な回答をした児童が 100%である。 ・小中合同研修会を年間３回実施した。 （課題） ・教育活動の情報発信について、デジタル化を進めるとともに学校だより等の HP 掲載について毎月更新を知らせるなどの工夫を行う必要がある。 ・スクール・コミュニティ推進のために学校運営協議会を更に充実させる。	スクール・コミュニティを推進し「子どもを中心に地域に根ざし地域に愛される学校」の実現。	①　保護者や地域の方、特に防犯ボランティアの方との連携を図るため、学期当初の登校指導や一斉下校を実施する。（年間３回以上） ②　地域、保護者の方が、いつでもどこでも学校の様子がわかるように、学校便り、学年だより、保健だより等、学校ホームページに掲載する。また、保護者からの要望を踏まえ、学年だよりは紙でも配付する。（毎月） ③　SSN 連絡協議会（年間２回）学校運営協議会（年間３回）等を通して積極的に地域、家庭に情報を発信し活動の周知、協力を進める。	・市学習状況調査（生活習慣等に関する調査）「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問において、肯定的な回答をした児童の割合が 90%を超える。 ・保護者の学校評価「分かりやすく学校の様子を伝えている」が前年度を超える（R5 年度 77%）。 ・小中合同研修会を年 3 回実施し、地域ぐるみで基本的生活習慣の定着、授業規律の徹底のための取組等を行う。	・市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加」に対する児童の肯定的な回答割合は 86.5%。 ・学校ホームページのリニューアル、情報の定期発信（月平均 9.5 回）、学年だよりの紙媒体配布を行った。保護者の学校評価「分かりやすく学校の様子を伝えている」での肯定的な回答割合は 91.1%（前年度比+14.1pt）。 ・小中合同研修会を３回実施し、各校での授業参観や教員同士の協議を通して３校共通認識のもと指導にあたった、 ・SSN 協議会、学校運営協議会にて情報発信や話合いを重ねるとともに、児童の参加を実現した。さらに、今年度、民生委員連絡協議会を立ち上げた。	B	・学校運営協議会での実りある熟議を重ねるとともに、児童の主体的な参画を推進していく。 ・今後も学校ホームページ等を活用して教育活動の情報発信を続けていく。 ・児童の地域への愛着を高められるよう、学校ファームなど学校主体のボランティアを整備し、地域の教育力を借りながら教育活動を進める。	・児童が登校時によく挨拶をするようになった。 ・学校ボランティアは学校運営協議会名で募集するが、実態としてどの程度人材確保できるかが今後重要になる。
4	（現状） ・これまでに、算数や体育について校内研修を行い、その成果を「大久保スタンダード」としてまとめ、日常的に活用している。 ・職員会議や研修等の会議では、校務用端末を活用してペーパーレスで実施している。 ・高学年の教科担任制を実施している。 （課題） ・学校課題研究を充実させ、教職員の資質向上をさらに図っていく必要がある。 ・時間外勤務の縮減に取り組み、教職員が健康で働きがいのある職場環境づくりを図る。	教職員がやりがいをもち、健康で能力を最大限に発揮できる環境づくり	①　学校課題研究で全教員一人ひとりが自分で教科や研究テーマを立て、児童の主体的な学習を促すための授業改善に取り組む。（通年） ②　担任制の実施により、教員の専門性を高めるとともに、授業の質の向上を図る。（通年） ③　キャリアナビ等を活用し、教職員の様々な研修会への参加を奨励する。（通年） ④　毎週水曜日をノー残業デーとする。（通年）	・計画的な校内研修の実施（年間２５回以上）。 ・校内研究授業の実施（年間５回） ・職場環境、満足度の肯定的回答が前年度と同水準（R5・91%）	・校内研修を２８回（学校課題研修、ICT 活用研修　他）、研究授業を５回実施した。学校評価「学力が身についている」の肯定的回答割合は、前年度と比べて児童は 2pt、保護者は 5pt 向上した。 ・職場環境、満足度の肯定的回答割合は 100%（前年度比+9.0pt）。 ・教科担任制による担当授業時数の削減や教育活動の検討、毎週水曜日のノー残業デーなど年間を通して実施した。教職員の時間外勤務時間の月平均は昨年度より６時間削減した。	A	・来年度、学校課題研修は３年計画における２年目となる。今年度研修の成果と課題を踏まえて研修を行い、児童の主体的な学習を促す授業改善を進める。 ・引き続き、教職員が健康で働きがいのある職場環境づくりを図る。	・職場環境については、教職員全員の実感としてどうかが重要である。今後もよい職場環境づくりに努めてほしい。